

# テレビニュースにおける原発震災被災地の 「定位」をめぐって

―夜のキャスターニュースのなかの「南相馬」

西 田 善 行

## 1. はじめに―原発震災のテレビ分析をめぐって

本稿は2011年3月11日に発生した東日本大震災および福島第一原発の事故に関して、その被害を被った地域やそこに住む人々が、テレビニュースのなかでどのように映し出されたのかを検討する。

原発震災については、テレビが何をどのように、そしてどの程度映してきたのか、これまで様々な形で検討が加えられてきた。とりわけ地震の発生から津波被害、そして原発建屋の爆発や事故対応に関しては、各局の報道についてミクロにもマクロにも分析が行われ、その報道内容への問題点が指摘されたのは周知の通りである。

その後の数年間にわたる報道内容への研究についても、発災当初から見れば大幅に減少したもののいくつか行われている。こうした長期的で経年的な原発震災に関するテレビ内容への調査では、しばしばメタデータなどを利用したマクロな分析で行われている。ここでは「震災」や「原発」といった語句の使用推移や頻用語句の検出から一定の傾向を見出すことが試みられる。例えば原由美子(2017)や筆者(西田, 2018a)の分析では、発災から数年後の傾向として震災報道の「3月ジャーナリズム化」が指摘されている。また継続的に震災「復興」が語られる一方で、原発の「再稼働」を巡ってその場所やアクターに変動が見られていることも語られている。さらに筆者は震災が発生した2011年頃に比べ、年数を経る中でメタデータ上の「年」や「月」といった

## 論文

語が当初より使用頻度が高まっていることも指摘した(西田, 2018a, p103-104)。これは、その後の災害を経るなかで、敢えて『2011年3月11日』の東日本大震災と福島第一原発事故」と明示する必要性が高まっていたことの証左である。

同時にマクロな分析による報道地域の偏りも指摘されている。松山秀明(2013)が震災後1年間の報道量から指摘した「地位偏在」は、その後も特に是正されることはなく、経年のなかで一層強まる傾向にある(米倉, 2017)。

ただしこれらのマクロ分析は、使用するメタデータにより一定の偏りがある。また映像や音声などマルチモーダルな表現がどのような形で配分されているのかは、メタデータでは知ることが難しい(西田, 2018b)。また原(2017)が指摘している通り、こうした事象を理論的にどのように理解するかという課題もある。

東日本大震災と原発事故のテレビ映像に関して、実際の視聴によって、しかも理論的含意を持って分析が進められているのがドキュメンタリー番組である。小林直毅(2018)はドキュメンタリー番組のもつテレビアーカイブ的な特性を「遅れ」という言葉で表現しつつ、ノーベル文学賞を受賞したアレクシエービッチの福島訪問を取り上げた『アレクシエービッチの旅路』(2017年放送、NHK)などの分析を行っている。チェルノブイリの記憶は福島の「いま」を問うものであり、なおかつ「未来の物語」として到来する。また西兼志(2018)は『汚染地図』シリーズ(2011年～2012年放送、NHK)や『亡き人との“再開”』(2013年放送、NHK)をとりあげ、後述の通り原発震災がもたらした空間軸と時間軸の「方向喪失=定位」の経験が描出されていることを浮上させている。

テレビ番組をめぐる視聴環境は、年々変化している。しかし新聞や雑誌などの文字媒体に比べ、その再視聴は未だ容易ではない。とりわけテレビニュースや情報番組はこの傾向が顕著である。この点を踏まえればメタデータやドキュメンタリー番組の分析は、この間膨大に制作された震災原発関連の放送内容の一端を知るうえで有益な指標となり得る。とは言え、報道量を大きく減らしつつも、これまで被災地の「現状」や「実際」などとして、我々が

日頃目にしてきたのはその多くがテレビニュースを介してのものだったはずである。それにもかかわらず、報道内容を詳細に検討した原発震災に関するテレビニュースの研究、とりわけ経年的にかつ理論的な分析を加えたものを見つけないことができない。

数少ない先行研究として原による震災関連ニュースの映像分析をあげることができる(原, 2019)。原はこのなかで、2012年以降の3月11日、とりわけ地震発生時刻である午後2時46分前後に映しだされた事物を分析し、そのなかで陸前高田の「奇跡の一本松」や南三陸の防災対策庁舎が被災の象徴として繰り返し映しだされていることを見いだしている。また2時46分の黙祷中の映像の中で時計や日本地図がしばしば提示されていることも明らかにしていることも重要である。

本稿でもテレビニュースを分析対象とし、とりわけメタデータからは浮上してこない被災地描写の特性と変化を明らかにする。ただし原の研究とは異なり本稿では特定の被災地の描写に限定している。また3月11日に限らず、他の期間も含めて分析の対象とする。とりわけ映し出された表象の意味について、分析概念を導入することで考察を行うことが本稿の議論の中心となる。その際中心概念として利用するのは、初期報道とその後放送されたテレビドキュメンタリーに関して西が用いた「定位＝方向喪失」という概念である。

## 2. テレビニュースにおける「定位」

### 2-1. メディアによる「定位＝喪失」と震災

哲学者のベルナルド・スティグレルは「方向喪失＝定位[dis-orientation]」という概念を、技術と人間との関係性のなかで説明した。スティグレルによれば、人間は根源的に自らの存在を自らの内に見出すのではなく、自ら発明し作り上げた前定立(prostheses・補綴)によって構制された環境のなかに見出す。こうした人間自らの存在(「誰」)を、自らの内にはなく、技術によって外部(「何」)から生み出して(定位して)いく根源的な性質を、スティグレルは「根源的な方向喪失」と呼ぶ(スティグレル, 2009, p59)。人間は

## 論文

この方向喪失の性質を、技術によって定位する。太陽や星の位置や運行、季節の移り変わりなど、原初の自然による時間的・空間的定位に始まり、宗教的・伝統的な諸行為による定位を経て、今日の我々はプログラム産業としてのメディアにより空間的・時間的に統御された日常を生活している。

スティグレールはかつて宗教儀式、非宗教的な祭典などが担っていた「暦法性」と「座標性」と呼ぶ時間的・空間的な定位を、20世紀にはプログラム産業、とりわけテレビが接収したと指摘する。番組表の設定や放送地域の設定が、人々をセグメント化、ターゲット化し、その生活を規定するようになるのである(スティグレール, 2013, p203-205)。

西はスティグレールのこの指摘を受けて、震災がこのテレビによって接収された日常／日常化したメディア(テレビ)の定位=方向喪失が、それを断ち切ることにより裸出されたと指摘する。このような裂け目が端的に表れたのが2011年3月11日の地震発生時、大阪の讀賣テレビから生放送していた『情報ライブ ミヤネ屋』だった。地震の様子を伝える東京、日本テレビの報道フロアのアナウンサーは、立っているのも困難なほどの揺れを伝え、「非常事態・非日常にいきなり投げ込まれた切迫した姿」が現された。その一方で、東京に比べ揺れが大きい大阪にいるキャスター、宮根誠司が「大阪も揺れています」と伝えるその様は、「あくまでテレビ的日常を続けようとし、日常の有する慣性の力に引きずられた姿」を露わにしていた。このような地震発生時の『ミヤネ屋』における東京と大阪の「ズレ」が、「日常の持つ慣性の力」や「これらのズレを生み出した空間的距離」の存在を裸出させたのである(西, 2018, p226-227)。

このようにして断ち切られた日常を西は「デフォルトとしての日常」と名付けている。重要なのは失われた日常というものが何であるのかが、失われなければ捉えることができない「欠失態」だということである。西はハイデガーの道具連関に関わる議論を援用しつつ次のように述べる。

別言すれば、道具連関からなった日常は、つねに「初期設定」としてありながらとらえられることなく、捉えられたときにすでに失われている

る。「欠失態」でしか捉えられないのだ。つまり、デフォルトとしてしかないわけである。(西, 2018, p229)

つまり「定位」は「喪失」とともに現れるということであり、何が「デフォルト」であるかは定位以前には「日常の中に覆い隠されている」のである(西, 2018, p228)。

こうした議論は、もちろん東日本大震災と福島第一原発事故だけにとどまる限定理論ではなく、リスクが局所的なものではなく世界的なものとして認識される「世界リスク社会」(ベック)において、そしてその認識や理解をめぐる「メディア化(mediatization)」(Cottle, 2009)が叫ばれる現代社会において、重要な意味を持つものといえる(大井, 2018)。

西はメディア的日常が原発震災によって穿たれた裂け目は、急速にデフォルトへと回帰していったなか、「震災、そして、原発事故がわれわれの日常を根本的に書き換えるものであったことを描き続けたのが、ドキュメンタリー番組である」(西, 2018, p228)としている。そして『汚染地図』シリーズをはじめ、複数のドキュメンタリー番組において、震災によって人々の空間的・時間的の定位が方向喪失したなかで、「汚染地図」という地図的想像力や、「心霊現象」という物語的想像力が召喚されていったことが記録されていることを確認する。そして「震災による日常に穿たれた断絶を描くだけでなく、それ自身が非日常的、反時代的であることこそがドキュメンタリーのなしたこと」であり、その意味で「ドキュメンタリー番組は、非テレビ的なものである」と論じている(西, 2018, p248)。

それでは「テレビ的」なものとは何か。これについて西は「<いまここ>の文脈へと収斂していく短絡的な回路」であるとしている。そして別の論文でもっともテレビ的なジャンルとしてニュースをあげている(西, 2007, p177)。とはいえもっともテレビ的なジャンルとしてのニュースにおいて、原発震災による定位と喪失が描かれなかったわけではない。ただし、それは「<いまここ>の文脈へと収斂していく短絡的な」、つまり「テレビ的」なものとしてあったのかもしれない。以下ではニュースの記号論的特性について説

明したうえで、テレビニュースが描いた原発震災による定位と喪失がどのようなものだったのか、考えていこう。

### 2-2. テレビニュースの語りとスタジオのダイクシス

ここでテレビニュースの何がどのように時間や空間を定位するのか、確認しておこう。西が取り上げた東日本大震災の発災時の『ミヤネ屋』での宮根誠司の語りでも垣間見えるように、テレビニュース、あるいは情報番組において空間と時間の定位あるいは喪失に、アナウンサーやキャスターによる「語り」が関わっている。石田英敬によれば「ニュースの語りは、〈こちら/あちら〉、〈私たち/彼ら〉、〈いま/過去・未来〉といった語りの配置をスタジオの〈ダイクシス〉の場所から起動させ」る(2003, p297-298)。「いま」何が起こっているのか、「あちら」にいる「彼ら」の行動は「私たち」に何をもたらすのかなど、アナウンサーやキャスターがスタジオで語ることでその配置を分配する。つまりスタジオという視聴者と世界をつなぐ統括的な場にいるアナウンサーの語り、指標的なテレビ記号を世界へと結びつけるのである。そして「潜在的なくあなた(たち) >としてモニターのこちら側に位置する視聴者の〈いま・ここ〉に向かって、外部世界の〈いま・あちら・彼ら〉の出来事を語るという〈ニュースの語り〉の配置がスタジオのダイクシスを通して成立する」(2003, p298)。このように生放送という形式でテレビで示されるニュースの語りは、キャスターのいるスタジオと、視聴者のいるお茶の間を「いま・ここ・私たち」として空間的・時間的に定位する。

これに関連して水島久光は「出来事」を成立させる空間としてのスタジオの基礎的な機能として、「指し示しの拠点」、「映像の断片の構成、秩序化」、「視覚的な具象性・象徴性」の3つをあげている(水島, 2009, p39)。キャスターニュースにおいて、スタジオはキャスターをはじめとする出演者の位置を定め、中継のような「中」と「外」を隔てる基点となる。同時にスタジオ内は複数の空間へと映像として隔てられ、秩序化されていて、例えばトップニュースやストレートニュースをメインテーブルで伝え、スポーツニュースや気象情報について大型画面を背景に立って伝える。そして大きなパネルやセット、

小道具を用いてニュースで伝える政治状況や季節の移り変わりなどを伝えるのである。

同様の指摘はジョン・フィスクによっても行われている。フィスクはカルチュラル・スタディーズの観点からニュース・キャスターの語りとスタジオという空間の持つ作用について次のように述べる。

ニュースはヒエラルキーの各段階の声に物語の異なる役割を割り振り、それぞれの声に対応して物理的にも象徴的にもふさわしい空間を割り当てるといった工夫を行っている。中心にあるのはスタジオのニュース・キャスターの占める空間である。ニュース・キャスターは自分が話す言説の原作者として登場しているのではなく、客観的かつ「つくりものではない」真実の言説を代弁する者として登場している。逆説ながら、ここではキャスターの人格が言説の客観性を保証するのに利用されている。「信頼に足る」といった人格特性がニュースの客観性を具体化したものであるかのように作用するのである。放送局内の見慣れたスタジオの中という言説の一設定は、そこで語られる言説が社会的主流であり、イデオロギックな偏向のないことの記号表現である。キャスターの口から、あるいはこの空間から急進的な声や破壊主義的な声が聞かれることはない。

(フィスク, 1998, p235-236)

このようにテレビニュースは「いま・ここ」というダイクシスを定位する装置であり、それはキャスター・アナウンサーの語りとその語りを展開されるスタジオを起点として成立するのである。

### 3. 対象と方法

#### 3-1. 夜のキャスターニュースの位置づけ

ニュースはそれが放送される時間帯により、取り上げられ方やテンポが異なっている。本稿で分析をおこなうのは平日の夜に各局で放送されている、ニュース番組である。これらには放送局のアナウンサーがただ原稿を読み上

## 論文

げりようなストレートニュースとは異なり、進行を務め解説者やゲスト、アナウンサー、そして視聴者へと語りかけを行うキャスターが存在する。石田(2003)によれば「番組は異なったジャンルに属する10個ほどのコミュニケーション行為の連続として現れ」、「キャスターはトピックを統括して番組の語りを指揮する役目を果たしている」。先述の通り、ニュースという空間を定位する担い手としてのキャスターの個性が前面化するのが夜のキャスターニュースであるといえる。

午後9時から12時という一日の終わりに一時間ほどの時間をかけて「今日の出来事」を振り返る夜のキャスターニュースは、オーディエンスが家事や出かける支度をしている慌ただしい時間帯に編成されたニュースに比べ、比較的ゆったりとした時間の流れのなかで視聴がなされることを前提としている。こうした性格は番組内容の編成にも表れていて、いわゆるストレートニュースが他の時間帯のニュースに比べ少なく、1つのニュースを比較的長くとする傾向がある。またこの時間帯のニュースは全て東京のキー局が制作した全国ネットの番組であり、テレビ東京制作の『ワールドビジネスサテライト』を除けば、被災地域でも放送されている。

先述の通り、東日本大震災や原発事故に関するニュースは3月を除けば報道量の減少が進んでいる。ニュースにおける報道件数の減少は、さながら我々が出来事を忘却し、想起する現実を表しているかのようである。しかしアルヴァックス(1989)の集合的記憶論を踏まえるのなら、出来事の忘却や想起には社会的作用が働いているのである。そして社会的出来事の忘却や想起をマスメディアがコントロールしていることは多くの論者が指摘してきた通りである。そのなかで原発震災に関する報道量の変化の特徴を見ると、「震災」「原発」の夜の時間帯の報道量は、番組の報道時間などから他の時間帯に比べ多くないものの、件数の減少幅は他に比べ少なく、震災報道や原発関連報道が一定程度継続的に行われていた(西田, 2018a)。その意味で夜のキャスターニュースは他の時間帯に比べて出来事の想起を促す報道に特色があり、ドキュメンタリーの持つ<非テレビ的>な要素が取り入れられているのかもしれない。

本稿では夜のキャスターニュースを取り上げ、番組のなかで原発震災に関する報道がどのようになされていったのか、分析を行う。

### 3-2. 原発震災のなかの「南相馬」

本稿では特定の地域の被災地や被災者がどのような形で描写されてきたのかを明らかにする。その際に対象とするのが福島県南相馬市である。南相馬市は福島県浜通りにある自治体で、2006年に原町市、鹿島町、小高町が合併してできている。2011年3月11日南相馬市に震度6弱の地震が発生、その後の津波により525人の死者が確認された（福島県災害対策，2021）。その後福島第一原発の建屋が爆発し、20キロ圏内の小高区が避難区域に指定され、1万2千人が避難することとなる。原町区など30キロ圏内も直後は「屋内避難指示区域」となり物資が入ってこないなど人々は困窮した。その後も放射能の汚染状況によって「計画的避難区域」、「避難指示解除準備区域」、「住居制限区域」、「帰還困難区域」などとして、複数の「区域」に分けられ一部を除く避難指示が全面解除となるのは2016年7月までかかった。ただし避難指示が多く地域で解除されて5年が経過した現在（2021年6月現在）も、小高区の住民居住率は54.99%であり、半数近くの人々が帰還しておらず、南相馬市全体でも57.3%でここ数年はほぼ横ばいで推移している（南相馬市，2021）。このように南相馬は地震・津波被害と原発被害という、東日本大震災の特徴である複合災害が集約的に現れた場所であり、原発震災と地域報道を考える上で重要な場である。

### 3-3. 分析対象

本稿で対象とするのは、PTP社のSPIDERで2011年8月1日から2017年8月31日の約6年の間で、「震災」と「原発」というキーワードで検索をかけて配信されたメタデータのなかから、番組内の「コーナー」に「南相馬」という語が記されていた2324件（のべ2950件）のうち、平日に放送されたNHKと民放キー局が制作した夜（21時～24時）のキャスターニュースの該当箇所である。該当ニュース件数は116件、番組数で103本のニュースである（表1、資料参

## 論文

照。メタデータの性格については西田,2018bを参照)。これらのニュースでの映像が映し出す場所の表象、そしてキャスターやアナウンサー、ナレーターあるいは南相馬に住む・住んでいた人々による語りを分析し、南相馬における原発震災報道でニュースは何をどのようなものとして定位し、あるいはそのなかで何が喪失したのか、考察する(以下では「no.1」などと資料番号を表す)。

表1 対象コーナー数の放送局別の推移

	NHK総合	テレビ朝日	TBS	日本テレビ	フジテレビ	テレビ東京	総計
2011年*	3	4	6	4	3		20
2012年	8	10	2	5	2	2	29
2013年	2	2	5	2	1	2	14
2014年	7	4	5	1		1	18
2015年	6	1	1				8
2016年	9	4	5	1			19
2017年*	4	2	1	1			8
総計	39	27	25	14	6	2	116

\* 2011年は8月1日からの4ヶ月、2017年は8月31日までの9ヶ月が対象。

この調査手法はそもそも「南相馬」が「震災」や「原発」と関連付けられているものに限定されており、「震災」や「原発」との関連で南相馬が定位されていないニュースが方法論上浮上し得ない。とはいえ台風接近などの災害に関わる報道を除けば、たとえ「南相馬」が直接的には震災や原発という言葉を用いなくても報道されていても、震災や原発に関わる言葉が語られないということはこの期間中は見られなかった。それどころか台風接近といった報道であっても「震災の被災地」という形容がされることもしばしばである(no.14)。

## 4. キャスターニュースで描かれた空間的定位

### 4-1. 「かき集め(claw back)られる」被災地と被災者

ニュースは特定の地域を複数ある場所のひとつとしてまとめ上げ、統合す

る。フィスクとハートレーはニュースにおけるこうした複数の出来事、映像の結合の在り方を「claw back(かき集め)」と呼んだ(フィスク・ハートレー, 1981)。とりわけ東日本大震災のように広範に渡るテレビニュースは複数の地域を「被災地」として、あるいは「原発被害の地」として結びつけていく。

2011年9月2日放送のNHK『ニュースウオッチ9』(no.7)では、この日に発足した野田佳彦内閣についてのニュースのなかで「南相馬市からの避難者」が登場する。首相となった野田は「原発事故の一日も早い収束」を最優先課題としてあげ、細野豪志の原発事故担当大臣、平野達男の復興担当大臣の再任が伝えられた。そして「被災地は今回の組閣をどう見たのか」というナレーションに合わせ岩手県宮古市でその様子をテレビで見る女性二人にコメントを求める。その後「原発事故に揺れる福島では」というナレーションに仮設住宅のショットと「福島では-」というテロップが映される。そして「南相馬市から避難」したという男性が「原発おさまらないと地元にも帰れないんで、そこをいちばんやってほしいと思います」と語る。その後福島県知事の佐藤雄平のコメントが入る。ここで南相馬から避難した男性の語りは、佐藤によるコメントと同様に「原発事故に揺れる福島」という場を代理=代表する「声」を表すものとして提示される。宮古市という「被災地」の女性二人の「声」とともに原発震災からの復旧・復興をうたう新内閣への声、要望として映像がナレーションとテロップを用いつつ「かき集め」られていくのである。

上記の例でもわかるように、南相馬の人々は様々なコンテキストのなかで他の地域とつながりながら描かれている。まず地震・津波の被害を受けた「被災者」として。

2014年3月11日に放送された『ニュースウオッチ9』(no.65)では、岩手県の宮古市・田老地区から中継が行われた。キャスターの井上あさひは「およそ2万人が犠牲になった東日本大震災、黙祷がささげられました」とボイスオーバーで語り、田老地区の防潮堤から被災者とともに午後2時46分に黙祷をささげた。黙祷は田老地区の防潮堤から宮城県名取市の津波痕にたたずみ一人黙祷する男性へと移り、さらに海上のボートで手を合わせる南三陸町の人々、福島いわき市の男性のクローズアップと続き、南相馬の小学校で手

## 論文

を後ろに組み黙祷する小学生へと移っていく。

2017年4月26日の『ニュースウオッチ9』(no.118)は「復興相辞任 被災地の怒り続く」というヘッドラインのもと、「東北で良かった」という失言で辞任をした今村雅弘復興担当大臣に対する「被災地」の声が伝えられる。その際に、訪れた南相馬の災害復興住宅で今村と話をした男性の「裏切られた」という語りが、浪江町長の馬場有の「冒涇している 残念だ」という語りの前になされている。

また「原発による被害を受けた人」という形で福島の他地域の人々と共に映されることも多い。例えば2011年9月14日の日本テレビ『NEWS ZERO』(no.12)では「『ZERO』は被災地の声をお届けします。今日は福島県で農業や畜産に携わる皆さんからのメッセージです」というキャスターの村尾信尚による導入から入る。その後南相馬の鹿島区の農場主の「農家が農業をできないってのが一番、つらいですよ」という語りが、棚倉町の畜産農家、伊達市の果樹園経営者によるメッセージと並べて伝えられる。このように南相馬の農業や畜産の従事者が、原発事故や事故処理による放射能汚染、風評被害に悩まされるという形で捉えられることがある。

「避難者」という形で原発から逃れて南相馬から避難した人々や、浪江などより原発に近い地域からの避難者も多く登場する。2011年8月11日放送のフジテレビ『LIVE2011 ニュースJAPAN & すぽると!』(no.5)では、日航機墜落事故の現場となった群馬県の上野村での灯籠流しの様子が30秒ほどのニュースとして伝えられた。そこに「今年は東日本大震災で群馬県に避難している、福島県南相馬市の被災者も訪れ、『脱原発、故郷で安全な生活が早くできることを願います』などのメッセージを灯籠に書き、共に安全と復興を祈りました」というナレーションとともに、灯籠のメッセージと灯籠を流す人の姿が短い時間のショットで映されている。2016年3月8日放送のTBS『NEWS 23』(no.97)では、まず須賀川市で農業を営む男性が原発事故を苦に自殺したことが描かれる。そこに震災関連死の増加が伝えられ、南相馬の仮設住宅が映し出されている。仮設住宅は人がまばらでさみしげな空間として映されている。そこに「長引く仮設住宅での避難生活は、孤独死の増

加も招いている」とナレーションが入り、南相馬での避難生活が長期化するなかで、孤独死をした60代の男性について取り上げられている。

こうした複数の地点をめぐる「かき集め」のスタイルは今回対象とした全国中継を行う番組のひとつの特徴ともいえる。全国をネットワークで結び、複数の地を取材対象とするという意味で。そして放送される地域が全国であり、そのネーションワイドでの結びつきが示されるという意味で。

#### 4-2. 地図的空間に結び付けられた南相馬

南相馬についての報道のなかで、津波被害など震災関連報道では必ずしも登場しないにもかかわらず、原発について言及した報道ではほぼ例外なく映されていたのが地図である。もちろん南相馬の位置を示すものとして地図は提示されるのだが、そこには福島第一原発の位置も記されていて、20キロ圏内の「ゾーン」が示される。そしてまたこの「ゾーン」はたびたび見直されることになる。こうした地図による位置づけから、原発について言及したニュースの際、南相馬が福島第一原発との距離のなかで意味付けられていることがわかる。

西は『汚染地図』シリーズを分析するなかで次のように述べる。

「地図」はベックが指摘していたように、放射能のような環境リスクを知覚するために必要なものである。それに加えて、メディアがわれわれの想像力、すなわち、空間的・時間的の定位を接収し、自然の定位を書き換えることで、方向喪失させるものであったことによる必然でもある。

(西, 2018, p237)

原発事故後、テレビニュースにおいて南相馬をはじめ福島県の多くの地域は福島第一原発（およびその事故による放射能汚染地域）との距離的な相関のなかに位置づけられ、定位され続けた。2011年10月17日放送の『NEWS ZERO』（no.15）では「福島第一原発から20キロあまりに位置する」小学校が再開されたことを伝えつつ、福島第一原発と南相馬市が示された地図が映さ

## 論文

れる。2016年7月12日の『ニュースウオッチ9』(no.105)では小高区などの多くの地域で避難指示が解除されたことを伝えつつ、CGで示した地図で避難指示解除準備区域や居住制限区域として色付けされた地域を示し、その色が取られることで解除されたことが示されている。

一方でこうした地図として示される区分については、テレビ朝日『報道ステーション』などで繰り返し疑問が示されていた。2013年3月14日の放送(no.57)では、年間1ミリシーベルトという放射線量まで除染をするという基準の変更をめぐる議論に関して、南相馬の住民や桜井勝延市長のコメントが伝えられた。この日キャスターの古舘伊知郎は、福島市の大波地区から中継を行っている。中継の冒頭、古舘は福島第一原発とそこから20キロ、30キロのゾーン、そして福島市大波地区が示されたフリップを提示して、次のように語る。

私がいま立っているところはですね、小川さんの紹介にもあったように、福島市の大波地区というここに来ております。福島第一原発からはですね、56キロあります。(略)ここは非常に放射線量がスポット的に高いところです。従いまして去年の9月ですが、この大波地区は、住まいの周りに関しての除染はですね、完全に終わりました。にも関わらず高いんですね。ですからずっと我々が伝えてきている、この20キロ圏内とか30キロ圏内という、こういう同心円というのは、放射線量に関してはもう、意味はないというふうに言えると思います。(no.57)

こうやってフリップをめくって同心円を消した地図を提示する。地図による福島と原発をめぐる定位は、原発や放射能をめぐる我々の認識を福島へと囲い込むことにつながる(玄侑, 2020)。地図は福島への認識の過剰化と他地域の放射能をめぐる知のブラックボックス化をもたらすのである。古舘が『報道ステーション』で行った従来の地図を定位し直すパフォーマンスは、政治とメディアが指し示し続けた福島第一原発と周辺地域をめぐる空間的定位への、ひとつの問いかけが行われたものとして記憶にとどめておくべきだろう。

## 5. キャスターニュースにおける時間的定位と喪失

### 5-1. 「あの日から〇年」「被災地のいま」を伝えるキャスター

先述の通り、原発震災に関わる報道は各年の3月を中心に、そこから半年が経過した9月、そして月命日にもあたる11日に報じられる傾向にある。そこでは「2011年3月11日」という「あの日」を起点として「被災地のいま」が伝えられるのである。

2012年9月10日に放送された『NEWS ZERO』(no.45)では、コーナーの冒頭、メインテーブルに座るメインキャスターの村尾がスタジオで「東日本大震災から、明日で1年半になります。被災地のいまをお伝えします」と語る。この後複数の被災地を映し出した写真とともに「3.11 あの日から1年半。」という特集名が表示される。そしてキャスターの櫻井翔が震災から1年半が経過し、「わたしに、できること。やっと“本格化”の現場」というテロップのもと、ようやくボランティアの活動が本格化した小高区について伝える。VTRのなかでは「津波によって大きな被害を受けた地域」が「震災当時のまま手つかず」であったこと、そして「あの震災から1年半、この地域の住民は元の生活に戻れる見通しはいまだたっていません」という櫻井によるナレーションが入る。そこには津波によって被害を受け放置されたガレキが点在する土地が広がっている。VTRはその日のボランティアによる作業を映し出しながら「いつか住民が戻るその日のために、ボランティアの活動は続きます」という櫻井のナレーションで閉じられる。映像はスタジオに戻り「わたしに、できること。まだまだ支援は“必要”」と表示されたなかで「震災から1年半が経とうとしていますが、被災者を支えるボランティアの活動はまだまだ必要とされています」と櫻井が語る。ここで提示した村尾や櫻井の語り、そして文字情報には多くの時間を指し示す言葉、ダイクシスが示されている。「あの日」から「1年半」が経って「やっと」ボランティアは本格化した被災地は「震災当時のまま」であり、もとに戻れる見通しは「いまだ」たらず、「まだまだ」「私たち」の支援が必要であるような「被災地のいま」が示されているのである。

震災報道において、キャスターは常にスタジオにいるわけではない。先述

## 論文

の『報道ステーション』の古舘のように、キャスターはしばしば被災地へと足を運び、そこで中継が行われる。いま、ここはどうなっているのか、私たちは何に目を向ければ良いのか、その日に行われた取材映像や被災者とのインタビューを通じて「被災地のいま」が定位されていく。ただし、南相馬を捉えたニュースには、例えば石巻など岩手や宮城の津波の被害を受けた地域のように必ずしも「復興が進んだ被災地のいま」が映されているのではなかった。そこに映されるのはむしろ「止まったまま」の空間であった。

### 5-2. 「空疎な空間」「止まった時間」としての南相馬

南相馬はしばしば「空疎な空間」、あるいは「不在の空間」が描かれる場となっていた。そしてまたこの空疎な空間は福島第一原発をコアとした形で広がっている。

2011年9月、原発から30キロ圏内にある原町区が緊急時避難準備区域から解除され、避難していた人々が戻り始める。2011年9月9日放送の『NEWS23』(no.11)はその原町区の様子を映している。この日の特集は福島地域医療の崩壊についてであった。キャスターの松原耕二は南相馬にある小野田病院から中継を行っている。小野田病院では医師や看護師が不足しているため入院病棟を開くことができず、収入は前年より8割減となったことが伝えられる。中継の冒頭松原は誰も使用していない病棟の廊下から一つの病室に入り、「私はいま福島県の南相馬市にあります、小野田病院にきています。この病院では、スタッフの多くが避難したことなどから多くの施設が使われないままとなっています。たとえばこの病室も4つのベッドがご覧のような(使用されていない)状態です。そしてカレンダーを見てみますと、3月のまま、ここでは時が止まったままとなっています」と語る。その後のVTRでも院長が案内する人のいない病棟、病室をカメラが映す。そして「喧騒から程遠い静かな院内、199のベッドがありながら、入院患者はわずか33人だ」とナレーションが入る。カメラは車通りが少なく、歩行者も高齢者のみで、まだ多くの店がシャッターを閉じている原町の商店街の様子を捉え「住民の4割以上が避難 患者が激減」とテロップが示される。この時

期、2011年10月27日放送の『LIVE2011 ニュースJAPAN & すぽると!』(no.17)や、11月16日放送の『NEWS ZERO』(no.18)などこうした人がまばらな街や患者のいない病院の描写が繰り返されていた。原町区の病室や人がまばらな街は「止まったまま」の空間の象徴するものとして繰り返し映されたのである。

原町区に住民が戻ってくるようになると、カメラは2012年の春に警戒区域から避難指示解除準備区域へと移行し、日中の立ち入りが可能となった小高区へとシフトするようになる。まず映されたのは津波被害を受けたままの状態となっている小高区の沿岸部である。津波でひっくり返った自動車や浸水による痛みが激しい住宅が所有者不在のまま映し出される。この姿は先述の2012年9月10日に放送された『NEWS ZERO』(no.45)でも描かれているが、この状況は震災から5年が経過した2016年でも変わっていない。2016年3月9日放送の『ニュースウオッチ9』(no.98)では、キャスターの河野憲治が南相馬から中継を行っている。そこに日中訪れた小高区沿岸の様子が伝えられる。河野はVTRのなかで「まだ当時のままの建物が残っていますね。(略)300メートルほど先の向こうは海なんですけれども、あそこから津波がずーっと押し寄せてきて住宅を襲ったと。そしてその痕はいまだに残されている」と語り、映像では沿岸の様子と津波の傷痕が残されたままの住宅地とそこを歩く河野の姿を映している。そして「津波のあと、福島第一原発から20キロ圏内のこの地域には、避難指示が出されました。住民だけでなく自衛隊、警察、消防までもが避難を余儀なくされました。5年が経つ今も、地震津波の傷痕があちこちに残っています」という河野によるナレーションが入る。VTRの後、河野はスタジオにいるキャスターの鈴木奈穂子と次のようなやり取りをする。

鈴木「うーん、河野さん、5年も経ったのに福島の沿岸部では津波の被害がまだこんなに残っているんですね。」

河野「そうなんですね。南相馬市のような福島県の沿岸部はですね、津波による被害は決して小さくはなかったんですけども、まあ原発事故

## 論文

の影響でいわば取り残されたままになっている、そんな印象を受けました。中でも、福島第一原発に近い期間困難区域などはですね、除染も進んでいませんし、津波で被害を受けた、家屋の片付けなども進んでいない状況です。こうした複合災害、地域に住む人の心にも、今なお大きな影を落としています。」  
(no.98)

このような「取り残されたまま」の不在の場としての小高区を象徴的に表すのは小高駅やその駅前商店街である。カメラは誰もいない駅舎やしばらく使われぬまま駐輪された駐輪場の自転車、差し出し口がテープでとめられた郵便ポストを繰り返し描写する。とりわけ車が一台も通らず、店舗のシャッターが閉められた中、街灯の音楽だけが鳴り響く駅前通りの様子は、当時の小高区の象徴として繰り返し描写されるのである (no.54、no.72、no.98)。2013年6月11日の『報道ステーション』(no.61)では「今も時間は止まったまま“泊まれない”故郷の街並み」と右上に表示されるなか、古館はスタジオからカエルの鳴き声だけが聞こえる小高の駅前の様子を実況する。そして古館はこの小高を「時間が止まったまま」にしたのが、先述 (no.57) の同心円に広げられた線分であることを批判する。

カエルの鳴き声、人がいなくなった、悲しみを際立たせる、逆に静けさを感じさせます。今日は、人工的に引いた一本の線が引き起こしたことについてお伝えします。この辺りは、原発から20キロ圏内、あの、丸い線によって警戒区域となったところです。みんな着の身着のまままで逃げて、この、自転車たちは、残ってしまいました。そしてこの、夜というものは、この街の苦しみを隠してもいます。それはあの震災で人が消えて残ったものがもう一つ、ゴミの山、深刻です。この辺り空間の線量は低いのに警戒区域という一本の線が引かれたために、計画はあってもいまだゴミは行き場が正直ありません。商店街の一本道ここは新たな線の中に入りました。避難指示、解除の準備区域です。まだ準備ですから、夜は誰も泊まれません。(略)住んでいたほんの少しの人は昼間だけ、

故郷に通ってきています。(略)勝手な都合で線引に組み込まれましたが、自分たちのつながりからこの小高の再生を密やかに準備している人もいるわけです。(no.61)

小高区は多くの地域が2016年7月12日に避難指示解除準備区域から外れ、居住が可能となった。この日に放送された『ニュースウオッチ9』(no.105,no.106)では小高駅への運転を再開した一番列車の様子を伝え、再びこの地に住む住民の様子を伝える一方で、農地や道路での除染が終わらず、多くの人に戻ってきていない住宅の様子を映している。

空疎で不在の空間はそのまま静止した時間の表象として示される。そこでは11年3月から「時が止まったまま」というキャスターの語りのもと、カレンダーや当時の子供の通知表などが提示されていく。

### 5-3. 「意味場」の崩壊

こうした「止まったまま」の空間はなぜ繰り返し映し出されたのだろうか。石田は阪神淡路大震災で傾いたビルに関連して次のような説明をしている。

意味場の崩壊(カタストロフ)の光景が示すのは、おそらくいつも、このようなエアポケットに似た私たちの意味空間の中断、宙づり、ある捉えどころのない不条理な無意味さの露呈なのではないでしょうか？それは、一瞬、文化の意味空間の外が垣間見られるときでもあります。

(石田, 2003, p117)。

カタストロフの光景は「意味場」の崩壊を指し示す。津波により破壊された街の姿はまさに「意味場」を失ったカタストロフの光景である。しかし「病院」「町」「家」という人間の居住空間が、行為と関係の場であり、そこでの行為と関係性が失われたことが視覚的に提起される南相馬での「止まったまま」の空間もまた、カタストロフの光景として浮上するのである。ここでハイデガーの言葉を引用しておこう。

今なお眼前的に存在する骨董品が「過去」としての性格を、その歴史的な性格をもっているのは<かつてそこにあった>既往的な世界に道具として所属していたからであり、そしてその世界に由来するものであったかたである。その世界は<現に既往して>いた現存在の世界なのである。

(ハイデガー, 2020, p40)

空疎な空間とはかつてそこにいた人間の営みの指標・痕跡なのである。有り得べき人の営みがそこには「ない」。不在の存在の指標が空疎な空間となって現れる。それゆえ空疎な空間と止まった時間は失われた「営み」を表象するものとして繰り返し浮上するのである。

こうした議論には、現在の我々自身が2011年3月11日に時間軸が方向定位されると同時に、それ以前の時間軸の方向喪失の状態にあることに留意が必要である。例えば水島らはNHKアーカイブスでのテレビ番組の分析をもとに、かつて気仙沼にあった漁場としての生活空間は、震災前の2009年には既に痕跡を留めるのみとなっていたことを指摘している。

2009年—「船」は、既にこの町では、「かつて」という時間を指し示すインデックス(指標記号)でしかなくなっていた。(略—そこに映された様々なものが)「今は、それは、そこにいない」という対象の不在を指し示している。本来、「いま」「ここ」的(同時空間的)状況共有を支えるはずの指標が、過去との間で意味関係を取り結ぶとき、そこにノスタルジーが形成される。(略)こうした番組の特徴は、生態系の分離・断片化・崩壊が進み、痕跡すらも前景から消え去ってしまっている点にある。

(水島・兼古・小河原, 2012, p88)

ニュースが繰り返し小高の車の通らない駅前の様子を映すとき、我々は2011年3月11日、あるいはその翌日の3月12日、原発事故によって小高に避難指示が出された日に定位し、そこから小高の日常が失われたことを読み

取ろうとする。しかしそれ以前、小高にどのような街並みが広がっていたのかについて、テレビを介して示されることはないのである。

ニュースにおいて日常が描かれることはまれである。なぜならそこには「ニュースバリュー」あるいは端的に「情報」(ルーマン)がないからである。ただし「日常を取り戻した」ことを語るニュースは、「非日常からの変化」という「情報」が存在するため、「非日常」の相関のなかで描かれることはある。

空疎な空間と止まった時間がくいまーここ>にある指標として提示されることがなくなり(あるいはそうした空疎な空間が「震災」「原発」と節合して表象されなくなり)、<かつてーここ>にあった再現イメージとしてのみ提示されるとき、我々は出来事を「過去」として認識するのではないだろうか。

## 付記

本稿は奈良県立大学共同研究員(2019年6月から2020年5月)としての研究成果物である。また本稿で分析した番組や収集データは法政大学原発震災放送アーカイブの収集資料を使用した。

## <文献>

- バック, ウルリッヒ 2010『世界リスク社会論 テロ・戦争・自然破壊』島村賢一訳、ちくま学芸文庫
- Cottle, S. 2009 Global Crisis Reporting: Journalism in the Global Age. Open University Press.
- フィスク, ジョン 1996『テレビジョンカルチャー—ポピュラー文化の政治学』伊藤守ほか訳、梓出版社
- フィスク, ジョン・ハートレー, ジョン 1991『テレビを<読む>』池村六郎訳、未来社
- 福島県災害対策本部 2021「平成23年東北地方太平洋沖地震による被害状況即報(第1778報)」福島県ホームページ ([https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/life/563420\\_1535209\\_misc.pdf](https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/life/563420_1535209_misc.pdf)) 2021年8月1日閲覧
- 玄侑宗久 2020「危機を憶いださねばならない理由「あわれ」から「無常」への9年」『Journalism』357号 p4-11
- ハイデガー, マルティン 2020『存在と時間8』中山元訳、光文社古典新訳文庫
- 原由美子 2017「東日本大震災から5年 テレビ番組は何を伝えてきたか—夜のキャスターニュース番組とドキュメンタリー番組」『NHK放送文化研究所年報

## 論文

2017』第61集

- 原由美子 2019「テレビニュース報道番組の映像分析の必要性と課題」『ジャーナリズム&メディア』第12号 p109-p119
- アルヴァックス, モーリス 1989『集合的記憶』小関藤一郎訳、行路社
- 石田英敬 2003『記号の知／メディアの知—日常生活批判のためのレッスン』東京大学出版会
- 松山秀明 2013「テレビが描いた震災地図—震災報道の「過密」と「過疎」」丹羽美之・藤田真文編『メディアが震えた—テレビ・ラジオと東日本大震災』東京大学出版会
- 小林直毅 2018「原発震災のテレビドキュメンタリー」小林直毅編『原発震災のテレビアーカイブ』法政大学出版局
- 南相馬市 2021「避難指示区域別居住状況」南相馬市ホームページ (<https://www.city.minamisoma.lg.jp/portal/sections/12/1215/2211.html>) 2021年8月1日 閲覧
- 水島久光・兼古勝史・小河原あや 2012「テレビ番組における風景の位相—映像アーカイブと日常の亡失に関する一考察(後編:三陸の場合)」『東海大学紀要文学部』第97輯(しゅう) p53-93
- 西兼志 2007「ヒロシマーネオ TV時代のドキュメンタリー」日本記号学会編『テレビジョン解体』慶応義塾大学出版会
- 西兼志 2018「原発震災とメディア環境」小林直毅編『原発震災のテレビアーカイブ』法政大学出版局
- 西田善行 2018a「原発震災と地域の記録と記憶を読み解く」小林直毅編『原発震災のテレビアーカイブ』法政大学出版局
- 西田善行 2018b「テレビアーカイブとメタデータの課題」小林直毅編『原発震災のテレビアーカイブ』法政大学出版局
- マッスミ, プライアン 2011「災害の半減期」長原豊訳『現代思想』2011年5月号、青土社
- スティグレール, ベルナル 2009『偶有からの哲学—技術と記憶と意識の話』浅井幸夫訳、新評論
- スティグレール, ベルナル 2010『方向喪失 ディスオリエンテーション 技術と時間2』西兼志訳、石田英敬監修、法政大学出版局
- スティグレール, ベルナル 2013『映画の時間と<難-存在>の問題 技術と時間3』西兼志訳、石田英敬監修、法政大学出版局
- 大井真二 2018『ジャーナリズム・スタディーズのフィールド』学文社
- 米倉侗 2017「震災テレビ報道における情報の「地域偏在」とその時系列変化—地名(市町村名)を中心としたアーカイブ分析から—」『ジャーナリズム&メディア』第10号, p27-46

テレビニュースにおける原発震災被災地の「定位」をめぐって

資料 夜のキャスターニュースで描かれた「南相馬」

no	放送局	番組開始日時	番組名	コーナー開始日時	長さ(秒)	内容	キャスター・アナウンサー・ナレーター
1	NHK総合	2011/8/3 21:00	ニュースウオッチ9	2011/8/3 21:29	635	<プレミアムウオッチ>密着4か月 酪農一家 中学3年の夏	大越健介(日本放送協会)、井上あさひ(日本放送協会)
2	NHK総合	2011/8/11 21:00	ニュースウオッチ9	2011/8/11 21:11	460	<ニュース>震災5か月被災地の思い	大越健介(日本放送協会)、井上あさひ(日本放送協会)
3	テレビ朝日	2011/8/11 21:54	報道ステーション	2011/8/11 21:57	701	<ニュース>被災地の夜空に「鎮魂」の花火 震災5ヶ月…そして「復興」へ	武内絵美(テレビ朝日)、古舘伊知郎
4	TBS	2011/8/11 22:54	NEWS23クロス	2011/8/11 23:05	294	<ニュース>被災地から勝場報告(16) 追悼と復興の花火	勝場貴子、松原耕二(TBSテレビ)
5	フジテレビ	2011/8/11 23:30	LIVE2011 ニュースJAPAN&すぽると!	2011/8/11 23:51	30	<ニュースFLASH>原発事故 被災者も…あす26年 灯籠流し	
6	TBS	2011/8/24 22:54	NEWS23クロス	2011/8/24 23:11	452	<シリーズ原発危機17魚の汚染は大丈夫?>シリーズ原発危機17魚の汚染は大丈夫?	勝場貴子、松原耕二(TBSテレビ)
7	NHK総合	2011/9/2 21:00	ニュースウオッチ9	2011/9/2 21:08	758	<ニュース>“野田流人事”の仕上がりは	大越健介(日本放送協会)
8	TBS	2011/9/6 22:54	NEWS 23クロス	2011/9/6 23:04	682	<“あの日”から半年>“総理”が初めて語る福島原発事故の真実	松原耕二(TBSテレビ)、勝場貴子、【声の出演】石井康嗣
9	日本テレビ	2011/9/7 22:54	NEWS ZERO	2011/9/7 23:03	187	<ニュース>福島県 原発1キロ地点で一斉捜索	村尾信尚、鈴江奈々(日本テレビ)
10	TBS	2011/9/9 23:30	NEWS23クロス	2011/9/9 23:32	256	<ニュース>鉢呂経産相「放射能うつしてやる」趣旨の発言	
11	TBS	2011/9/9 23:30	NEWS23クロス	2011/9/9 23:44	627	<“あの日から半年4”福島 崩壊する地域医療>“あの日から半年4”福島 崩壊する地域医療	勝場貴子、松原耕二(TBSテレビ)、【声の出演】湯浅真由美
12	日本テレビ	2011/9/14 23:00	NEWS ZERO	2011/9/14 23:46	139	<3・11から6か月 いま、つたえたいこと。>3・11から6か月 いま、つたえたいこと。	鈴江奈々(日本テレビ)、村尾信尚
13	テレビ朝日	2011/9/15 21:54	報道ステーション	2011/9/15 22:39	65	<ニュース>乳幼児も内部被ばく検査 福島・南相馬市で開始	小川彩佳(テレビ朝日)
14	テレビ朝日	2011/9/21 21:54	報道ステーション	2011/9/21 21:55	1287	<ニュース>列島縦断の台風15号 首都圏でも交通機関ストップ“帰宅”大混乱	小川彩佳(テレビ朝日)、古舘伊知郎

論文

no	放送局	番組開始日時	番組名	コーナー開始日時	長さ(秒)	内容	キャスター・アナウンサー・ナレーター
15	日本テレビ	2011/10/17 22:54	NEWS ZERO	2011/10/17 23:17	266	<ニュース> 福島・南相馬市 小中5校再開…生徒数は半減	鈴木崇司(日本テレビ)、松尾英里子(日本テレビ)、櫻井翔(嵐)、村尾信尚、鈴江奈々(日本テレビ)
16	フジテレビ	2011/10/26 23:40	LIVE2011 ニュースJAPAN&すぽると!	2011/10/26 23:47	405	<警戒区域 最前線からの報告 vol.1 放射能から子供を守る> 福島の前線から(1) “子供の内部被ばく”判明	秋元優里(フジテレビジョン)
17	フジテレビ	2011/10/27 23:40	LIVE2011 ニュースJAPAN&すぽると!	2011/10/27 23:46	398	<ニュース> 福島の前線から(2)被災地“命の砦”崩壊の危機	秋元優里(フジテレビジョン)
18	日本テレビ	2011/11/16 22:54	NEWS ZERO	2011/11/16 23:13	553	<3.11 あの日から、8か月。> 地域医療に危機 医師、看護師が足りない	村尾信尚、鈴江奈々(日本テレビ)、松尾英里子(日本テレビ)、【声の出演】渡辺克己
19	テレビ朝日	2011/12/12 21:54	報道ステーション	2011/12/12 22:52	770	<高層タワーで避難生活 福島・被災者の苦悩> 高層タワーで避難生活 福島・被災者の苦悩	古館伊知郎、【声の出演】仮屋昌伸
20	TBS	2011/12/22 22:54	NEWS23クロス	2011/12/22 23:25	381	<ニュース> 子どもたちの心に写った被災地	膳場貴子
21	NHK総合	2012/1/4 21:00	ニュースウォッチ9	2012/1/4 21:10	314	<ニュース> “復興の年”にかける思い	井上あさひ(日本放送協会)、大越健介(日本放送協会)
22	日本テレビ	2012/1/4 23:24	NEWS ZERO	2012/1/4 23:29	316	<ニュース> 消費税増税へ決意「ネバーネバーギブアップ」	鈴江奈々(日本テレビ)、村尾信尚、鈴木崇司(日本テレビ)
23	NHK総合	2012/1/5 21:00	ニュースウォッチ9	2012/1/5 21:34	599	<ニュース> 父の背中を見て…新年の決意 南相馬の酪農一家 中学3年の決意	大越健介(日本放送協会)、井上あさひ(日本放送協会)
24	NHK総合	2012/1/10 21:00	ニュースウォッチ9	2012/1/10 21:32	633	<ニュース> 震災10か月 医療現場の訴え	井上あさひ(日本放送協会)、大越健介(日本放送協会)
25	テレビ東京	2012/1/27 23:00	ワールドビジネスサテライト	2012/1/27 23:17	137	<特集 被災地企業が結集し挑戦> 被災地に自然エネルギー 大手の力でメガソーラー	小谷真生子
26	テレビ朝日	2012/2/23 21:54	報道ステーション	2012/2/23 21:54	105	<ニュース> 原発から25km 南相馬の“異変”	古館伊知郎、小川彩佳(テレビ朝日)、三浦俊章(朝日新聞社)

テレビニュースにおける原発震災被災地の「定位」をめぐって

no	放送局	番組開始日時	番組名	コーナー開始日時	長さ(秒)	内容	キャスター・アナウンサー・ナレーター
27	テレビ朝日	2012/2/23 21:54	報道ステーション	2012/2/23 21:58	672	<ニュース>南相馬“高線量”黒い物質 コケ?菌類?その正体は	古館伊知郎、三浦俊章(朝日新聞社)、【声の出演】柳沢真由美
28	フジテレビ	2012/3/1 23:45	LIVE2011 ニュースJAPAN&すぽると!	2012/3/2 0:24	594	<ROAD TO LONDON>元祖”山の神”今井正人 ロンドン五輪への思い	平井理央(フジテレビジョン)、西岡孝洋(フジテレビジョン)
29	フジテレビ	2012/3/6 23:30	LIVE2011 ニュースJAPAN&すぽると!	2012/3/7 0:11	708	<3.11 あの日から一年～福島県立原町高校野球部の今～>3.11 あの日から一年 福島 原町高校野球部の今	平井理央(フジテレビジョン)
30	テレビ朝日	2012/3/8 21:54	報道ステーション	2012/3/8 22:20	420	<ニュース>農家からは怒りと困惑の声 原発事故の賠償金に“課税”	三浦俊章(朝日新聞社)、小川彩佳(テレビ朝日)、古館伊知郎
31	テレビ東京	2012/3/8 23:00	ワールドビジネスサテライト	2012/3/8 23:06	979	<シリーズ特集 記録 3.11から1年>福島企業の企業 翻弄の現実	小谷真生子、藤蔭隆富(テレビ東京)、【声の出演】西田紘二
32	NHK総合	2012/3/13 21:00	ニュースウォッチ9	2012/3/13 21:58	85	<エンディング>エンディング?	井上あさひ(日本放送協会)、廣瀬智美(日本放送協会)、大越健介(日本放送協会)
33	NHK総合	2012/3/30 21:00	ニュースウォッチ9	2012/3/30 21:19	120	<ニュース>避難区域の見直し2市1村で正式決定	井上あさひ(日本放送協会)、大越健介(日本放送協会)
34	テレビ朝日	2012/3/30 21:54	報道ステーション	2012/3/30 22:37	86	<ニュース>避難区域を一部見直し 立ち入り可能な地域も	古館伊知郎
35	テレビ朝日	2012/4/11 21:54	報道ステーション	2012/4/11 22:36	195	<ノンフィクション作家 吉岡忍さんに聞く「原発再稼働 わたしはこう思う」>ノンフィクション作家 吉岡忍さんに聞く「原発再稼働 わたしはこう思う」	小川彩佳(テレビ朝日)
36	テレビ朝日	2012/4/16 21:54	報道ステーション	2012/4/16 22:41	68	<ニュース>南相馬「警戒区域」会場もインフラ・除染…残る課題	小川彩佳(テレビ朝日)、古館伊知郎
37	テレビ朝日	2012/6/7 21:54	報道ステーション	2012/6/7 22:23	367	<ニュース>南相馬市…進まぬ復旧 分断された住民たちの苦悩	古館伊知郎、【声の出演】小山茉美
38	テレビ朝日	2012/6/7 21:54	報道ステーション	2012/6/7 22:31	164	<ニュース>南相馬市…進まぬ復旧 分断された住民たちの苦悩	【声の出演】小山茉美

論文

no	放送局	番組開始日時	番組名	コーナー開始日時	長さ(秒)	内容	キャスター・アナウンサー・ナレーター
39	テレビ朝日	2012/6/7 21:54	報道ステーション	2012/6/7 22:33	134	<ニュース>スタジオトーク	古館伊知郎、三浦俊章(朝日新聞社)、小川彩佳(テレビ朝日)
40	日本テレビ	2012/6/7 22:54	NEWS ZERO	2012/6/7 23:22	475	<ZERO SPORTS>中畑監督の復興支援故郷・福島の少年に伝えたこと	鈴木崇司(日本テレビ)、ホラン千秋、村尾信尚、鈴木奈々(日本テレビ)、【声の出演】田中良典
41	日本テレビ	2012/7/5 22:54	NEWS ZERO	2012/7/5 23:38	209	<ZERO CULTURE>倉本聰(77)最新作原発・ガレキ問題を描く理由	ホラン千秋
42	TBS	2012/8/16 22:54	NEWS23クロス	2012/8/16 23:17	495	<復興ボランティア>膳場キャスター被災地報告28 外で遊べない子どものために	膳場貴子
43	日本テレビ	2012/9/10 22:54	NEWS ZERO	2012/9/10 23:28	329	<3.11 あの日から、1年半。>わたしに、できること。ボランティアようやく“本格化”	村尾信尚、櫻井翔(嵐)
44	NHK総合	2012/9/13 21:00	ニュースウオッチ9	2012/9/13 21:31	522	<ニュース>被災地の老医師 命をかけて…立ち向かう理由	大越健介(日本放送協会)、井上あさひ(日本放送協会)
45	日本テレビ	2012/10/19 23:58	NEWS ZERO	2012/10/20 0:35	184	<ZERO CULTURE>園子温監督「希望の国」原発事故をテーマにした理由	村尾信尚、八木早希
46	NHK総合	2012/10/25 21:00	ニュースウオッチ9	2012/10/25 21:20	156	<ニュース>宮城・石巻で震度5弱	井上あさひ(日本放送協会)、大越健介(日本放送協会)
47	NHK総合	2012/12/7 21:00	ニュースウオッチ9	2012/12/7 21:38	337	<ニュース>ベストセラー歴史書 著者が見た福島	大越健介(日本放送協会)、井上あさひ(日本放送協会)
48	テレビ朝日	2012/12/24 21:54	報道ステーション	2012/12/24 23:12	717	<2度目の冬… 事態はより深刻に>看護師“格差”広がる福島	古館伊知郎
49	TBS	2012/12/25 22:54	NEWS23クロス	2012/12/25 23:19	54	<23 X TODAY>子どもの“肥満”トップは福島県	
50	フジテレビ	2013/1/8 23:45	LIVE2013 ニュースJAPAN&すぽると!	2013/1/8 23:53	450	<ニュース>Tonight's Issue「福島最前線からの報告19 自宅で迎える初の新年 思いは」	大島由香里(フジテレビジョン)、奥寺健(フジテレビジョン)
51	TBS	2013/1/25 23:30	NEWS23クロス	2013/1/25 23:49	290	<ニュース>末期がんでも…被災地医療を守る“闘う産婦人科医”高橋亨平氏死去	膳場貴子
52	日本テレビ	2013/2/5 22:54	NEWS ZERO	2013/2/5 23:11	239	<ニュース>原発事故の影響で… 家や農地荒らす動物に不安の声	村尾信尚、桐谷美玲、鈴木奈々(日本テレビ)

テレビニュースにおける原発震災被災地の「定位」をめぐって

no	放送局	番組開始日時	番組名	コーナー開始日時	長さ(秒)	内容	キャスター・アナウンサー・ナレーター
53	日本テレビ	2013/2/14 22:54	NEWS ZERO	2013/2/14 23:33	338	<ZERO CULTURE>福島の復興プランを考える「AIサミット」開催の理由	鈴江奈々(日本テレビ)、村尾信尚、鈴木崇司(日本テレビ)、ホラン千秋
54	テレビ東京	2013/3/11 23:00	ワールドビジネスサテライト	2013/3/11 23:00	120	<東日本大震災から2年>東日本大震災から2年 各地で追悼の折り	小谷真生子
55	テレビ朝日	2013/3/14 21:54	報道ステーション	2013/3/14 22:33	325	<ニュース>揺れる1mSVの除染目標 住民は翻弄	古館伊知郎
56	TBS	2013/4/11 23:24	NEWS23	2013/4/11 23:43	588	<NEWS23 復興フロンティア>元東電マンのリベンジ「原発被災地に太陽光発電を」	膳場貴子
57	NHK総合	2013/4/29 21:00	ニュースウオッチ9	2013/4/29 21:31	428	<ニュース>母親支える亡き息子の写真	井上あさひ(日本放送協会)
58	テレビ朝日	2013/6/11 21:54	報道ステーション	2013/6/11 22:34	203	<ニュース>今も時間は止まったまま “泊まれない”故郷の街並み	古館伊知郎
59	TBS	2013/6/24 22:54	NEWS23	2013/6/24 23:13	618	<ニュース>68年たっても残る沖縄戦の傷「晩発性PTSD」に苦しむ人々	膳場貴子、【声の出演】山田真一
60	NHK総合	2013/7/2 21:00	ニュースウオッチ9	2013/7/2 21:12	347	<ニュース>東電 運転再開に向け 審査申請へ	松田利仁重(日本放送協会)、井上あさひ(日本放送協会)、大越健介(日本放送協会)
61	TBS	2013/8/19 22:54	NEWS23	2013/8/19 23:12	622	<NEWS23 特集>福島・川内村の夏 復興を願う「盆野球」	蓮見孝之(TBSテレビ)
62	テレビ東京	2013/9/25 23:00	ワールドビジネスサテライト	2013/9/25 23:00	499	<WBSニュース>汚染技術進歩も現場は…	森本智子(テレビ東京)、進藤隆富(テレビ東京)、小谷真生子
63	TBS	2013/12/20 23:30	NEWS23	2013/12/20 23:46	444	<NEWS23 文化部>小津監督・生誕110年 没後50年 映画で被災者の“心の復興”を	膳場貴子、【声の出演】湯浅真由美
64	NHK総合	2014/3/6 21:00	ニュースウオッチ9	2014/3/6 21:13	601	<ニュース>東日本大震災から3年 原発避難者に「認知症」その実態は	大越健介(日本放送協会)、井上あさひ(日本放送協会)
65	NHK総合	2014/3/11 21:00	ニュースウオッチ9	2014/3/11 21:05	758	<ニュース>東日本大震災3年 前に進むために	井上あさひ(日本放送協会)、大越健介(日本放送協会)
66	テレビ東京	2014/3/11 23:00	ワールドビジネスサテライト	2014/3/11 23:10	235	<特集>震災3年 試練に挑む 和菓子メーカーの悩み	小谷真生子、進藤隆富(テレビ東京)

論文

no	放送局	番組開始日時	番組名	コーナー開始日時	長さ(秒)	内容	キャスター・アナウンサー・ナレーター
67	テレビ朝日	2014/3/20 21:54	報道ステーション	2014/3/20 22:37	78	<ニュース>南相馬で最後の卒業式 津波被害で児童が減少	恵村順一郎(朝日新聞社)、小川彩佳(テレビ朝日)、古館伊知郎
68	NHK総合	2014/4/30 21:00	ニュースウオッチ9	2014/4/30 21:32	601	<ニュース>大型連休被災地を訪ねて ふるさとに戻る人は…	井上あさひ(日本放送協会)、大越健介(日本放送協会)
69	TBS	2014/5/7 23:09	NEWS23	2014/5/7 23:11	90	<ニュース>新団体で「国民運動を」細川氏・小泉氏「原発ゼロ」再び始動	蓮見孝之(TBSテレビ)
70	テレビ朝日	2014/5/13 21:54	報道ステーション	2014/5/13 22:16	561	<ニュース>「美味しんぼ」描写に波紋 当事者、福島県民の胸中は…	恵村順一郎(朝日新聞社)、古館伊知郎、小川彩佳(テレビ朝日)
71	テレビ朝日	2014/7/14 21:54	報道ステーション	2014/7/14 22:32	369	<ニュース>がれき撤去で飛散の恐れ 説明せず…国に地元の怒り	恵村順一郎(朝日新聞社)、古館伊知郎、小川彩佳(テレビ朝日)
72	TBS	2014/7/14 22:54	NEWS23	2014/7/14 23:19	184	<ニュース>福島第一原発「がれき処理」で飛散か? 20キロ離れたイネに放射性物質	蓮見孝之(TBSテレビ)、【声の出演】石井康嗣
73	日本テレビ	2014/7/14 23:00	NEWS ZERO	2014/7/14 23:49	25	<PICK UP>がれき撤去で、放射性物質 飛散か。	右松健太(日本テレビ)
74	TBS	2014/7/15 23:04	NEWS23	2014/7/15 23:33	54	<23TODAY>がれき飛散 農水相は「問題ない」	古谷有美(TBSテレビ)、岸井成格、蓮見孝之(TBSテレビ)、膳場貴子
75	NHK総合	2014/7/23 21:00	ニュースウオッチ9	2014/7/23 21:40	63	<ニュース>原発がれき撤去 東京電力「1兆ベクレル超 飛散と推定」	
76	TBS	2014/7/25 23:30	NEWS23	2014/7/25 23:47	339	<ニュース>福島第一原発 来月にも新たな解体工事に住民は	蓮見孝之(TBSテレビ)、膳場貴子、古谷有美(TBSテレビ)
77	TBS	2014/8/5 22:54	NEWS23	2014/8/5 23:44	45	<ニュース>コメ汚染問題で「情報開示の徹底」要請	蓮見孝之(TBSテレビ)
78	NHK総合	2014/9/1 21:00	ニュースウオッチ9	2014/9/1 21:29	388	<ニュース>福島県知事 建設受け入れ伝える	井上あさひ(日本放送協会)、大越健介(日本放送協会)
79	NHK総合	2014/9/11 21:00	ニュースウオッチ9	2014/9/11 21:11	1421	<ニュース>東日本大震災から3年半 被災地の現状	児林大介(日本放送協会)、大越健介(日本放送協会)、井上あさひ(日本放送協会)
80	NHK総合	2014/9/15 21:00	ニュースウオッチ9	2014/9/15 21:18	417	<ニュース>地元の人たちの思いは…	井上あさひ(日本放送協会)、大越健介(日本放送協会)

テレビニュースにおける原発震災被災地の「定位」をめぐって

no	放送局	番組開始日時	番組名	コーナー開始日時	長さ(秒)	内容	キャスター・アナウンサー・ナレーター
81	テレビ朝日	2014/10/22 21:54	報道ステーション	2014/10/22 22:13	368	<ニュース>「1号機」 建屋カバー解体着手 放射性物質…飛散対策は	古館伊知郎
82	NHK総合	2015/3/2 21:00	ニュースウオッチ9	2015/3/2 21:07	202	<特集>汚染水海へ流出 地元漁業者は	大越健介(日本放送協会)
83	NHK総合	2015/3/2 21:00	ニュースウオッチ9	2015/3/2 21:57	160	<特集>常磐自動車道 開通 込められた思い	大越健介(日本放送協会)
84	TBS	2015/3/16 22:54	NEWS23	2015/3/16 23:30	378	<NEWS23 高橋尚子> 重かった「山の神」の 呪縛 今井正人(30)輝 きを取り戻した“ひと言”	【ゲスト】高橋尚子
85	NHK総合	2015/5/11 21:00	ニュースウオッチ9	2015/5/11 21:36	286	<ニュース>東日本大 震災4年2か月 ボラン ティア求める声 今も	鈴木奈穂子(日本放送協会)、河野憲治(日本放送協会)
86	テレビ朝日	2015/5/11 21:54	報道ステーション	2015/5/11 22:30	401	<特集>福島 息子を捜 し続ける父“菜の花迷 路”に託す思い	古館伊知郎
87	NHK総合	2015/6/3 21:00	ニュースウオッチ9	2015/6/3 21:30	58	<today's watch> 被 災地を支援する歌声	三條雅幸(日本放送協会)
88	NHK総合	2015/6/11 21:00	ニュースウオッチ9	2015/6/11 21:32	377	<ニュース>東日本大 震災4年3か月 コメド ころ復活へ一歩ずつ	児林大介(日本放送協会)、河野憲治(日本放送協会)、鈴木奈穂子(日本放送協会)
89	NHK総合	2015/7/31 21:00	ニュースウオッチ9	2015/7/31 21:17	397	<ニュース>東電元会 長ら3人を強制起訴へ	鈴木奈穂子(日本放送協会)、河野憲治(日本放送協会)
90	TBS	2016/1/4 22:54	NEWS23	2016/1/4 22:56	276	<ニュース>株式市場 は「騒ぐ」年に?ボカボカ 「仕事始め」…どんな 一年に?	【声の出演】幸田夏穂
91	日本テレビ	2016/1/11 23:00	NEWS ZERO	2016/1/11 23:14	348	<ニュース>新成人 121万人 式典などでト ラブル 逮捕者も	久野静香(日本テレビ)
92	NHK総合	2016/2/12 21:00	ニュースウオッチ9	2016/2/12 21:58	62	<エンディング>エン ディング	河野憲治(日本放送協会)、鈴木奈穂子(日本放送協会)
93	TBS	2016/3/8 22:54	NEWS23	2016/3/8 23:14	705	<5年そしてこれから> 震災関連死 自ら生命を 絶った農家は… 今も続く “被災地の死”	岸井成格、膳場貴子、【声の出演】湯浅真由美
94	NHK総合	2016/3/9 21:37	ニュースウオッチ9	2016/3/9 21:55	292	<震災 あの日から5年> “複合災害”の影響 知 られざる一本松	河野憲治(日本放送協会)、鈴木奈穂子(日本放送協会)
95	NHK総合	2016/3/9 21:37	ニュースウオッチ9	2016/3/9 22:00	627	<震災 あの日から5年> “複合災害”の影響 心 に落とす影	河野憲治(日本放送協会)

論文

no	放送局	番組開始日時	番組名	コーナー開始日時	長さ(秒)	内容	キャスター・アナウンサー・ナレーター
96	NHK総合	2016/3/9 21:37	ニュースウオッチ9	2016/3/9 22:10	119	<震災 あの日から5年> >“約9割完了”の違和感 広がる復興の格差	河野憲治(日本放送協会)
97	NHK総合	2016/3/9 21:37	ニュースウオッチ9	2016/3/9 22:12	120	<震災 あの日から5年> “複合災害”の影響 伝え続ける	
98	NHK総合	2016/3/9 21:37	ニュースウオッチ9	2016/3/9 22:14	106	<震災 あの日から5年> “複合災害”の影響 復興 実感できず	河野憲治(日本放送協会)
99	TBS	2016/3/11 23:30	NEWS23	2016/3/11 23:32	466	<5年 そしてこれから> >各地で鎮魂の折り 東日本大震災から5年	岸井成格(毎日新聞社)、膳場貴子、【声の出演】石井康嗣
100	TBS	2016/5/13 23:30	NEWS23	2016/5/13 23:59	31	<ニュース>福島・南相馬 避難指示7月解除か	
101	NHK総合	2016/7/12 21:00	ニュースウオッチ9	2016/7/12 21:33	394	<ニュース>南相馬 これまで最大 避難指示解除	三條雅幸(日本放送協会)、鈴木奈穂子(日本放送協会)、河野憲治(日本放送協会)
102	NHK総合	2016/7/12 21:00	ニュースウオッチ9	2016/7/12 21:40	171	<ニュース>避難指示解除 戻れない住民も… 帰還実現へ課題は	河野憲治(日本放送協会)、三條雅幸(日本放送協会)、鈴木奈穂子(日本放送協会)
103	テレビ朝日	2016/11/11 21:54	報道ステーション	2016/11/11 22:28	455	<3.11から伝えたい> 左手のピアニスト	富川悠太(テレビ朝日)、小川彩佳(テレビ朝日)、【声の出演】木村多江
104	テレビ朝日	2016/11/22 21:54	報道ステーション	2016/11/22 21:57	1016	<ニュース>福島県沖でM7.4の地震 よみがえる「震災の記憶」	【声の出演】松本考平、山本慎也
105	テレビ朝日	2016/11/22 21:54	報道ステーション	2016/11/22 22:14	196	<ニュース>福島県沖でM7.4の地震 “その時”何を考えどこへ	富川悠太(テレビ朝日)、板倉朋希(テレビ朝日)
106	テレビ朝日	2016/11/22 21:54	報道ステーション	2016/11/22 22:23	228	<ニュース>福島第二原発 冷却一時ストップ	小川彩佳(テレビ朝日)、【声の出演】九川由梨奈
107	TBS	2016/11/22 23:00	NEWS23	2016/11/22 23:00	900	<ニュース>なぜ?混乱は?「警報」の前に1.4mの津波	星浩(朝日新聞社)、雨宮塔子、皆川玲奈(TBSテレビ)、【声の出演】額田康裕、加藤有生子
108	NHK総合	2016/11/23 21:00	ニュースウオッチ9	2016/11/23 21:09	230	<ニュース>1週間程度 同規模の地震・津波に十分注意	河野憲治(日本放送協会)、鈴木奈穂子(日本放送協会)
109	NHK総合	2017/3/8 21:00	ニュースウオッチ9	2017/3/8 21:34	595	<ニュース>不正総額37億円 闇に消えた“復興補助金”	鈴木奈穂子(日本放送協会)、河野憲治(日本放送協会)

テレビニュースにおける原発震災被災地の「定位」をめぐって

no	放送局	番組開始日時	番組名	コーナー開始日時	長さ(秒)	内容	キャスター・アナウンサー・ナレーター
110	日本テレビ	2017/3/17 23:30	NEWS ZERO	2017/3/17 23:42	288	<ニュース>原告 母と息子の思い… 原発避難訴訟「国に責任」初の判決	小正裕佳子
111	NHK総合	2017/3/31 21:00	ニュースウォッチ9	2017/3/31 21:15	753	<ニュース>避難指示解除 住民それぞれの選択 新たな課題	河野憲治(日本放送協会)、鈴木奈穂子(日本放送協会)
112	テレビ朝日	2017/4/6 21:54	報道ステーション	2017/4/6 22:41	99	<ニュース>原発事故から6年 故郷の小学校再開	小川彩佳(テレビ朝日)、富川悠太(テレビ朝日)
113	TBS	2017/4/25 23:00	NEWS23	2017/4/25 23:00	576	<ニュース>大震災「東北で良かった」今村復興相 辞任へ	
114	NHK総合	2017/4/26 21:00	ニュースウォッチ9	2017/4/26 21:12	363	<ニュース>復興相辞任 被災地の怒り続く	伊藤海彦(日本放送協会)、有馬嘉男(日本放送協会)、桑子真帆(日本放送協会)
115	テレビ朝日	2017/6/12 21:54	報道ステーション	2017/6/12 22:29	442	<3.11から伝えたい> たんすの気持ち	後藤謙次、富川悠太(テレビ朝日)、小川彩佳(テレビ朝日)、【声の出演】國村隼
116	NHK総合	2017/6/30 21:00	ニュースウォッチ9	2017/6/30 21:13	496	<オープニング>東電旧経営陣 法廷に“新資料”の存在指摘	桑子真帆(日本放送協会)、有馬嘉男(日本放送協会)

